

最古の官道が伝える ～ヤマトタケルの夢とロマン～



脈々と流れる歴史の中で様々な「人」「物」「文化」が行き交い、時代に応じて少しずつその役割を変えつつも今も生き続ける。ストーリーを“ミライの社会”へとつなげるために・・・



JAPAN HERITAGE
日本遺産
竹内街道

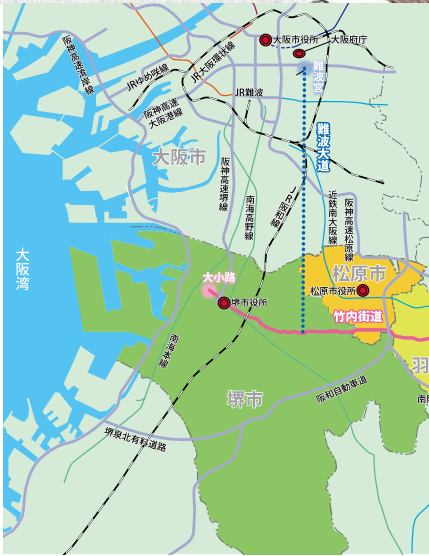


北川 嗣雄 Kitagawa tsuguo
羽曳野市長

竹内街道・歴史の舞台を見つめて

■北川：羽曳野市を東西に走る、日本最古の官道と言われる竹内街道が平成29年4月に日本遺産に認定されました。「竹内街道」とはどのような“もの”で、この地域でどのような“意味”を持つのか、歴史的な背景から白石先生のお考えなど、お聞かせ願えませんか。

■白石：竹内街道は大和と難波を結ぶ古代の重要なルートであり、羽曳野市の「古市」は、竹内街道（東西）と東高野街道（南北）の交差する地点でもあります。推古朝の頃から大和～河内を結ぶ計画道（奈良盆地の上ツ道、中



■古代の街道
飛鳥から奈良盆地を北上する上ツ道、中ツ道、下ツ道、それに直交する横大路、また、京と難波を結ぶ難波大道。これら2つの大路を結ぶのが日本最古の官道、竹内街道。

ツ道、下ツ道、横大路、河内の丹比道、大津道など）、つまり古代の幹線道路の整備が進められるようになります。また、大和では下ツ道と山田道の交点がある現在の橿原神宮前駅の東側にあたり、かつて「**輕の衢**」と呼ばれ、人々の交流の場でありました。古代の交通路の交点にはどこでも「**衢**」と呼ばれる広場が存在しており、まさに**羽曳野の古市は「衢」**であり、文献でも**餌香市**という大きな市が出来上がっていたということが知られています。羽曳野市には**竹内街道と東高野街道の交点である**

えがのち 餌香市という場所があった、その重要性を認識していただく良い機会になればと思っています。そしてもう一つ、日本遺産の構成遺産にはなっていませんが、竹内街道が近つ飛鳥を通っているということが非常に重要な意味を持つということですね。「あすか」というのは大和の明日香が有名ですが、ここは渡来人がたくさん定着し、古代においては非常に先進的な地であったわけですが、河内の飛鳥（羽曳野市飛鳥）は、飛鳥戸神社、**くさきおう** 毘支王という百済の王様を祀る神社があり、その付近が河内飛

◆◆対談者紹介◆◆



■白石 太一郎
Shiraiishi taichiro
大阪府近つ飛鳥博物館
館長



■中 盛秀
Naka morihide
誉田八幡宮
宮司



■柁元 政美
Kugimoto masami
近畿日本鉄道株式会社
古市駅 駅長



■戒井 憲裕
Ebisui norihiro
株式会社りそな銀行
羽曳野支店 お客様サービス部長



■樽井 佳代子
Tarui kayoko
羽曳野市議会
議長

鳥の中心となります。その辺りには6～7世紀頃の重要な古墳が残されており、有名なものでは観音塚古墳、オーコ8号墳など、古墳時代の終わり頃の「横口式石槨」という石棺を大きくして横に入口を付けたような特殊な埋葬施設をもつ古墳があります。有名な高松塚古墳やキトラ古墳もこの横口式石槨であり、このタイプの一番古いものが近つ飛鳥にあるんです。これはどうも近つ飛鳥の渡来人たちが生み出し、それが後に大和に移ったと考えられます。つまり、河内の飛鳥に渡来系の人々が多く定着し、先進的な文化を伝えてくれたという由緒のある場所でもあるということで、竹内街道がそこを通っているということもまた重要であり、大変興味深い点だと思えます。

■北川：竹内街道沿い、特に羽曳野市域は“賑わい”の場であったということになりますか？

■白石：それは間違いありません。羽

曳野だけではありませんが、やはり餅香市という大きな市があったということもあり、中心的な賑わいの場であったと考えられます。

■北川：同じ6世紀頃に建立されたという誉田八幡宮は、応神天皇陵を主祭神とされていますが、中宮司がこれまでに聞きされたり、また、代々伝えられてることなど、お教えいただけませんか。

■中：誉田宗廟縁起という絵巻物に記されていますが、当八幡宮が6世紀に造られたことは間違いありません。また、誉田八幡宮には5世紀に応神天皇陵の前方部より出土した「金銅製透彫鞍金具」という国宝に指定されている馬具があり、おそらく応神天皇の時代に渡来したものであると考えられます。5～6世紀という遙か昔のことですが、何かしら“標”が存在するものですね。また、その頃は6世紀に仏教の伝来とともに、寺社の信仰が始まった時代でもあるというわけですね。竹内街道は、

まさに信仰が伝わった道であり、そのご縁を感じています。

■白石：現在、堺市・藤井寺市とともに世界文化遺産登録に向けて取り組んでおられる百舌鳥・古市古墳群ですが、こちらは対象を古墳だけに絞っています。一方で、古市古墳群の中心となる応神天皇陵古墳を理解するには、誉田八幡宮が切っても切れない関係にあるわけです。少なくとも平安時代の中頃には応神天皇を祀る誉田八幡宮が現在の位置にあったとされており、また、その存在によって古墳の被葬者が応神天皇であると考えられます。最近では古墳の年代研究が非常に進み、研究の結果でも、応神天皇陵古墳が造営された年代は5世紀の早い段階であり、また応神天皇が活躍された時代も4世紀末～5世紀初めということで、時代も合ってきます。こんな関係性からも、ぜひ百舌鳥・古市古墳群の世界遺産、竹内街道の日本遺産、地元としては一体的に考えてほしいと思っています。



野～榎山にかけての道のり

昔ながらの飛鳥川沿いのまちなみ

[市内ルート] 野村(羽曳野市野)～榎山～野々上～峯ヶ塚古墳～白鳥陵古墳～古市駅～臥龍橋～逢阪橋～月読橋～飛鳥川の歌碑～八丁橋～上ノ太子駅(羽曳野市飛鳥)

【竹内街道(たけのうちかいどう)】大阪と奈良を東西に結ぶ竹内街道は、日本書紀の推古天皇21年(613年)の条に、「難波より京(飛鳥)に至る大道を置く」と記された「大道」のルートと重なることから、日本最古の官道と呼ばれる。堺市の大小路から松原市、羽曳野市を経て太子町に入り、大阪・奈良の府県境の二上山の南にある竹内峠を越えて、奈良県葛城市の長尾神社に至る約26kmの街道。

“日本遺産”として—活用・発信

■北川：このような歴史遺産に囲まれた土地である羽曳野の“魅力”をどう活かせるのか、“古市”という地に赴任されている柗元駅長、戎井部長はどのようにお考えになりますか。

■柗元：例えば、市と駅とでタイアップし、羽曳野に足を運んでいただく企画など考えていきたいですね。先日、私鉄5社で取り組んだウォークイベントに4,000人の参加者があり、集合場所の上ノ太子駅前が人であふれ返りました。歴史に関心をお持ちの方が多くいらっしゃることをつくづく感じましたし、その土地ならではの観光・文化を発信するお手伝いができればと考えています。

■戎井：りそな銀行としても、古くから地域で商売をさせてもらっていることあるので、地域に恩返しができる取り組みを行いたいと考えています。羽曳野市で働きたい、起業したい、事業を継承したいなど、地域の方々のニーズを知り、適したサービスを提供させていただきたいと考えています。

■北川：近鉄線はこの南河内地域をつなぐ唯一の公共交通機関ですし、情報発信をしていただくとありがたい。鉄道事業者という視点から、南河内地域が今後どのように一体的に魅力を発信できるのか、また、金融機関という視点から、まちの賑わいづくり、雇用の創出など、この景観を守り活かしながらどのように進めていくべきかアドバイスをいただくとありがたいです。次に、このまちで生まれ育ち、今は市



野中寺



飛鳥川の歌碑



誉田八幡宮



西林寺



金銅製透彫鞍金具



古市古墳群

議会議員として市政に関わる樽井議長ですが、今後の羽曳野について“どう”あるべきだと思いますか。

■樽井：幼い頃から身近に古墳、つまり天皇陵の存在を感じながら育ってきたこともあり、どこか誇らしい気持ちを羽曳野の方は感じられるのではないかと思います。世界から注目が集まっている今、羽曳野をPRする良い機会でもあると思います。観光施策にも力を入れ、多くの人に「行きたい」「住みたい」としてもらえる場所にしたいと思いますし、更には人口減少、少子高齢化に歯止めをかけたいです。

■北川：たくさんの方に訪れたいと思っていただくために、ワンランクアップさせるには、竹内街道沿いで“まち”にどんなおしゃれができるのかご意見をお聞かせください。

■戎井：街道沿いには歴史的な建物も見られるので、例えば古民家をリノベ

ションして、カフェや宿泊施設として利用できるようにし、そこからワイナリーで収穫や醸造などの農業体験をするといった、羽曳野市に滞在してもらえる仕組みが作れるのではないかと思います。

■北川：全国的にも古民家再生のプロジェクトなどが行われているが、当市でも取り組めたらと思っています。歴史を知る資料館や、地場産品を使ったレストランなど、地域のみなさんも巻き込んで、賑わいの場として発展させたい。まさに昔のえびのちのように、人々で賑わう場となれば、と思っています。

■白石：古代の“市”とは、市場だけに限りません。様々な儀式や男女の婚活、刑罰なども行われ、情報交換の場でした。また、誉田八幡宮の所蔵されている金銅製馬具は、日本では最も古い時期の馬具です。5世紀初頭前後のものでは、東アジアで最も優れたもの

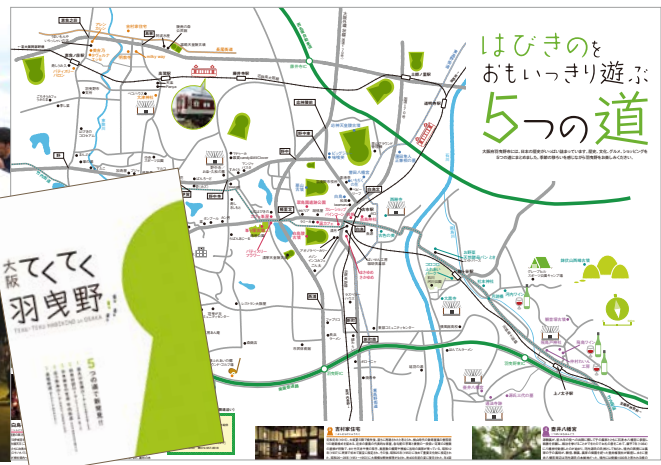


街道まつり

竹内街道・横大路(大道)は、平成25年に敷設1400年の節目を迎えることを契機に、沿道自治体2府県10市町村が連携し、竹内街道・横大路(大道)活性化実行委員会を発足。街道まつりやウォーク、フォトコンテストなど、国内外に向けた魅力発信や地域活性化に取り組んでいます。



はびきのの夕べ





の一つと言っても良いと思います。4世紀後半から倭人も乗馬の風習を習い、東アジアの高度な文明を受け入れ、仲間入りをしたのが、まさに応神天皇陵の頃から。この馬具はそういった意味でも非常に重要な意味を持つものですので、やはりその意味をもっと多くの方に知っていただきたいですね。

■中：国宝の「^{こんどうせいすけほりくらかなぐ}金銅製透彫鞍金具」は土曜日のみ公開しています。先日京都国立博物館に出展させていただきましたが、もっと多くの方にご覧いただきたいと思っています。やはり取り扱いは細心の注意を払うので、公開は週1回が精一杯、というところです。

●古市駅の記念入場券いろいろ



▲世界文化遺産の国内推薦決定を記念



▲ご当地入場券



■北川：行政としてできることがあれば協力させてもらいたいです。特に、来年度は市制60周年を迎える年でもあるので、馬具の展示も含めて記念となる事業や企画を行いたいと考えていますし、お集まりの皆様のお知恵も拝借したいです。

■白石：飛鳥時代に日本でも仏教寺院の建設が始まりましたが、大和の飛鳥、河内の飛鳥はその中心的な場所でした。近隣の藤井寺市や柏原市などと連携され、古代寺院跡を巡るルートの設定なども非常に興味深いと思います。

■戒井：地域の良いところを活かし、事業を起こしたいという方々に情報やアイデアの提供などで、お手伝いさせ

ていただきたいです。

■柗元：昨年の百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産国内推薦を受け、古市駅で記念入場券を作らせていただきましたが、600枚ほども売れ、我々も驚いています。他県からも足を運んでくださる方も多いとわかったので、色々な面で地域の皆様や行政とタッグを組んで、様々な地域から羽曳野市を訪れてもらえるよう取り組みたいですね。

■樽井：人の集まる「道」そのものにも、目立つような舗装をするなど、体感できるような環境が整うと良いと思います。観光で賑わう羽曳野をつくっていききたいです。

■白石：羽曳野市は数多くの歴史遺産、歴史的景観がまだ残っている貴重な地域です。今までもこれからも守っていただきたいですし、それを積極的に進めようとする市民グループも結成されているので、市民の方々の意見も取り入れながら、活用を考えていかれると素晴らしい取り組みになると思います。

■北川：日本遺産である竹内街道はもちろん、2年後の世界文化遺産登録に向けましても関係自治体との連携を図りながら進めてまいりたいと思います。

・・・ 編集後記 ・・・

竹内街道沿いには今も往時をしのばせる風景や建物が数多く残っています。そんな空間に浸り時の長さを感じる時、なぜか懐かしさとともに穏やかな気持ちになるのは、私だけではないと思います。

竹内街道とそのストーリーの“保存と活用・発信”を考察し、大切なことは、人々の心情を尊重しながら、歴史に問いかけ、何を守り、何を变えるべきかを明らかにしていくことだと。そしてその作業は、私たちのまち羽曳野の、^{わだち}持続的な発展と軌を一にするものだと、改めて認識する対談となりました。

